

※クリックすると記事のページを開きます。

①2016 年受入（2016 年 11 月）：短期 Joint Education Program 開催報告（タンデム学習）	2
②2017 年度受入（2017 年 7 月）	4
③2018 年度プログラム事前学習（2018 年 6 月）：ヤンゴン日本語教室便り	5
④2019 年度短期 JEP 報告（2019 年 7 月）	6

①2016 年受入（2016 年 11 月）：短期 Joint Education Program 開催報告（タンデム学習）

2016 年 11 月 19 日～29 日（ヤンゴン大学）、同 11 月 21 日～30 日（ラオス国立大学、王立ブノンペン大学）の日程で、世界展開力強化事業「日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・カンボジア知日人材養成プログラム」短期 Joint Education Program が実施されました。



左：カンボジア語のタンデム学習の様子、右：ラオスからプット副学長の講演

ヤンゴン大学 3 名、ラオス国立大学 4 名、王立ブノンペン大学 6 名の、計 13 名の学生を受け入れ、本学学生とタンデム学習を行いました。タンデム学習を通じ、双方学生の語学力向上はもちろんのこと、コミュニケーション力、主体的行動力、異文化受容力等を養うことにもつながりました。

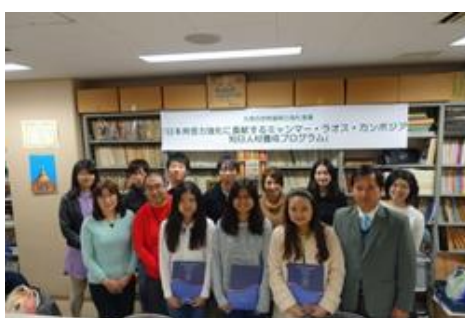
また、協定校から来日したラオス国立大学 Phout SIMMALAVONG 副学長および Mixay SOUKCHALEUN 日本語学科長、王立ブノンペン大学 Oum RAVY 副学長および Duong CHANMETTACHAMPAVIENG コミュニティ開発科専任講師による講義も行われました。

閉講式には受入学生はもとより、ビルマ語、ラオス語、カンボジア語を学ぶ本学学生も多く参加し、全員で歌ったり踊ったりと、交流の深まりを感じさせるものとなりました。

▼ 学修風景（左：ラオス語のタンデム学習、右：王立ブノンペン大学教員の講演）



▼ 短期 Joint Education Program 閉講式（左：ラオス国立大学、王立ブノンペン大学、右：ヤンゴン大学）



▼ 研修旅行（左：11/24 雪の鎌倉大仏、右：11/26 浅草研修）



▼ 日本文化体験



②2017 年度受入（2017 年 7 月）

2017 年 7 月 15 日（土）から 23 日（日）まで、大学の世界展開力強化事業「日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・カンボジア知日人材養成プログラム」の短期 Joint Education Program で、5 名のヤンゴン大学の学生を受け入れました。ヤンゴン大学の学生は、ビルマ語専攻の学生とともにを行うタンデム学習として、江戸東京博物館、鎌倉などへの一日研修や、お互いの文化を学ぶ授業、ホームビジット等多彩なプログラムに参加しました。



開講式



鎌倉への 1 日研修



茶道体験

③2018 年度プログラム事前学習（2018 年 6 月）：ヤンゴン日本語教室便り

2018 年 6 月 30 日

GJO 日本語講師 今井己知子

本学の世界展開力強化事業における「日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・カンボジア知日人材養成プログラム」の一環として短期 Joint Education Program があります。今年で 3 年目のこのプログラムで GJO ヤンゴンの日本語講座で学ぶヤンゴン大学の学生 5 人が 7 月中旬から日本を訪れ、本学で様々な講義を受けたり、社会見学につれて行ってもらったり、日本人のお宅にお邪魔したりすることになっています。このプログラムに参加することになった 5 人は何か月も前から大興奮の大喜び。ところが、世の中そんなに甘くありません。皆が待ちに待ったこの盛りだくさんのプログラム 2 日目にミャンマー人学生による日緬比較のプレゼンテーションが予定されています。6 月初めにその旨伝えと、一瞬緊張が全員の顔に走り、さらに、プレゼンテーションは出来るだけ日本語で行うよう、難しい箇所は英語かミャンマー語でも構わないと東京側から言われていると追い打ちをかけるように言うと、全員キヤーキヤーと戦々恐々とする始末。

GJO ヤンゴンの日本語講座は正規授業が終わった放課後の時間を利用して行っているため、時間的制約がかなりあるため、彼らの日本語能力は初級前半も終了していないレベルです。この日本語力でプレゼンテーションを行うのは相当無理がありますが、内容が充実していれば、または努力の跡が見られれば大目に見ていただけるだろうと、学生の自立学習を妨げるようなことは取立てせず、傍観を決めて一か月。6 月最後の週にリハーサルをして、フィードバックしてほしいと全員が言うので、やらせてみたところ、予想通りの目を覆いたくなるような惨状で、どうしてフィードバックしたものか途方に暮れるばかり。でも、どうにかこうにか問題点を伝え、改善点のヒントを与えその日は終わりました。残念ながら来日前クラスは時間がなくて再度リハーサルする時間を取れなかったため、彼らがどう改善したのかは東京での本番まで分かりません。

大いに気を取り直して本件の良いところを考えると、このプレゼンテーションを行うにあたって、感心なのは大人の手が入っていないということです。誰にも入れ知恵された形跡がなく（それだけかなり凄い代物だということですが）、学生が自力で課題を調べ、プレゼンテーションの構成を考え、原稿を書き、発表したということは誠に喜ばしいことだと受け止めたいと思います。結果はどうあれ、自立学習の経験になったことは確かだと思いました。このような機会を与えて下さった TUFS 及び世界展開力のプロジェクトに謹んでお礼を申し上げます。ありがとうございます。

ただ、プレゼンテーション本番で、日本側の聴衆の皆さんのお顔に？マークが浮かぶのが目に見えるようすが。

④2019 年度短期 JEP 報告（2019 年 7 月）

2019 年度の大学の世界展開力強化事業「日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・カンボジア知日人材養成プログラム」の短期 Joint Education Program では、2019 年 7 月 19 日（金）から 7 月 26 日（金）まで、ミャンマー・ラオス・カンボジアの学生を受け入れました。ミャンマー班では、ヤンゴン大学の学部生 5 名を受け入れました。この 5 名は、ヤンゴン大学国文学部に設置された本学の Global Japan Office で開講している日本語クラスで、優秀な成績を修めた学生です。



ミャンマー・ラオス・カンボジアの三国合同の開講式



日本語でスピーチをするヤンゴン大学のメートウトウカインさん

本プログラムでは、ミャンマーの学生と本学でビルマ語を専攻する日本人学生とのタンデム学習を実施しました。本学からは、夏季集中講義「上級実践ビルマ語」として履修した 3、4 年生 5 名のほか、1、2 年生も参加しました。また、昨年 2018 年 10 月から本学で学んでいるヤンゴン大学の交換留学生 3 名も参加しました。参加者は、ミャンマーと日本の学生混合の 4 つの班に分かれ、グループワークを行いました。

本年度は、災害とごみ問題をテーマにプログラムを組みました。講義では、日本とミャンマーの直面する問題やそれに対する取り組みについて学び、立川防災館や府中リサイクルプラザへも見学に行きました。また、江戸東京博物館では、江戸時代から昭和時代にかけての災害対応やゴミ問題の歴史についても学びました。



立川防災館



立川防災館の救出・救助体験コーナー

最終日には、本学の学生はビルマ語で、ミャンマーの学生は日本語で、プレゼンテーションを行いました。日本とミャンマーの学生が、それぞれの国が直面している社会問題とその対策に向けた取り組みについて議論することを通して、互いの文化や社会問題への理解を深めることができました。



プレゼンテーション

このほか、留学生は、山梨方面学外研修で、北口本宮富士浅間

神社、山梨県立富士山世界遺産センター、山梨県立リニア見学センターを訪問したほか、着物の着付けや茶道などを体験しました。



北口本宮富士浅間神社



着物体験

ご協力くださいました先生方、関係者の皆様に心よりお礼を申し上げます。